



くぼたつ

久保田達也(くぼた・たつや)：冒険家、NAPU大学名誉人文学博士、ラジモア大学教授、工学院専門学校インターネット科特別講師、日経新聞ビジネスセミナー常任講師。

起業家の卵は熱いうちに打て 学生たちと創るネットベンチャー

学生たちと会社を創った。実は授業をしながらいきなりそう閃いたのだ。

僕は5年前に日本工学院専門学校のインターネット科の設立に協力して以来、その特別講師として教壇に立ってきた。インターネットの普及とともに新入生(18歳)のインターネットスキルはすでに一般レベルを超えるようになった。最近では入学した時点でJAVA、C++、Linux……を使いこなすやつまでいる。はじめてキーボードを打つ連中でも後期には教師を超えてしまうのだ。彼らはプレステで育ち、携帯で恋愛をする筋金入りのネットワークerジュニアなのだ。昨日の学生からのメールにこんなのがあった。「先生の講義をノリニア加工&SMIL編集して作品創ってみました」と圧縮、暗号化し、資料添付してきたのである。解凍、再生しながら、思わず「ああ、新しい世代がいよいよ登場してきたのだな」とつぶやいてしまった。

一方、企業向けインターネットに関する講演依頼も増えてきている。最近では週に平均3本ぐらいのペースで新聞社、銀行、行政機関などから依頼されている。IT戦略や企業ホームページ戦略に関する内容が主な講義内容だが、うれしいことに満員御礼だ。講演会のアンケート結果も平均4点(5点満点中)を維持している。

毎回、受講者であるビジネスマンにインターネットスキルのレベルはどの程度かを挙手で確認している。それによると一般レベルの電子メールやキーワード検索はできる、また一度は会社でインターネットショッピングをしたことがあるといった一般ネットユーザーが大半だ。暗号化した圧縮ファイルを資料添付してメールするメールテクや、コラボレーティブフィルタリングサービスを活用した情報収集、ASPを社員で共有しての情報管理などビジネスレベルまで到達しているネットユーザーはまだごく稀のようだ。それどころか、「これからパソコンを買うがどれがいいだろうか」という経営者もいて、いきなりITなんぞ始めてほしいよぶなのだろうかと思いをかき上げてしまう。素人が始めるのだから高度な情報技術よりも、もっと重要で実践的な電子メールのビジネスでの活用法とか、プレゼンテーションに応用できるホームページ制作などのインターネット技術を習得するほうが有益なはずなのだが。



これらのことから考えてみると、僕の周りで2つのことが起きていることになる。かたや学生達はすでにインターネットはプロだがビジネスはまだまだ素人。かたやビジネスマンのインターネット技術はまだ素人だがビジネス経験はプロ。

そこで、今度はその両者を混ぜてみたらよかろうと考えた。インターネット専門の学生とビジネスマンを合わせて共同作業をさせるのである。僕はこれまで学生にはインターネットを使ったビジネスを教えてきている。またビジネスマンにはビジネスに役立つインターネット技術を教えてきた。その別々にやって来た授業を一緒にやるだけのことなのだ。プロセスはこうだ。

学生によるベンチャービジネス会社を設立する。

会社にコンサルティングの営業を行う。

契約を取り付けてから、まずは僕がひととおり全社員に向けてビジネス向けインターネット技術を講義する。各社員に実践してもらおうが、できる人できない人の個人差があるので、そこで学生達を引き連れていって社員ひとりひとりに個人教授をする。

全員がオンラインビジネスでよちよち歩きができるようになったら、あとはオンライン学習で本格的なインターネットビジネスを実践コンサルティングする。もちろん学生達にもプレスト参加やビジネスコンテンツ制作を通してベンチャービジネスを実践してもらおう。

授業を始めてから5分の間、「今日はどんな授業をしようか」とつらつらとそんなことを考えていた。やはりやるっきゃない! 「いまから会社を創る」と言い放った。

こうして、前代未聞の師弟企業が本当にスタートしてしまったのだ。はたしてその顛末は? 詳しくは次号でお伝えしよう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp